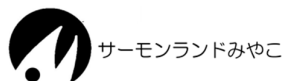


# 空白地域解消推進協議会

## 【事例報告】空白地域解消推進のための体制づくり・教室立ち上げ



R3.10.21 「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業

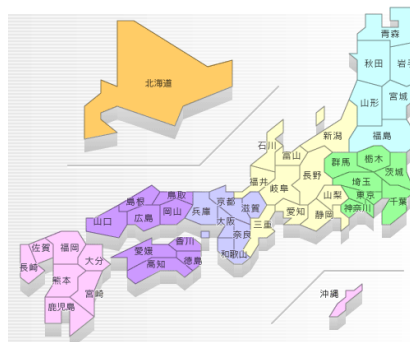


宮古市企画部企画課地域創生交流推進室



宮古市国際交流協会

### ○宮古市について



#### 岩手県宮古市

最近イチオシ「瓶ドン」



- ◆本州最東端に位置し、広大な面積を有するまち
  - ・面積：1,260平方km
  - ・県内最大、市としては東北で2番目、全国で8番目、岩手県総面積の8.2%
  - ・人口5万人以上の都市で、東京からの時間距離が最も遠い
    - ※2度の市町村合併（平成の大合併）
    - ・平成17年6月 宮古市、田老町、新里村
    - ・平成22年1月 宮古市、川井村
- ◆豊かな自然資源を有するまち
  - ・「三陸復興国立公園」「早池峰国定公園」を併せ持ち、自然資源が豊富

総人口	50,562人 ※R3.1.1現在		
外国人数	157人	比率	0.31%
主な国籍	中国45人、韓国・朝鮮：24人、ベトナム21人、ミャンマー21人、フィリピン10人		
主な在留資格	技能実習65人、永住者34人、特別永住者22人、日本人の配偶者等11人、教育8人		

## ○当時の状況

### ■日本語教室の状況

H12.3~H28.3

「オーシャンズ  
宮古国際交流倶楽部」



H28.4~

日本語教室  
「さくら」



↑当時の日本語教室「さくら」の様子

### ■宮古市国際交流協会の設立 H28.7.26

(設立の背景) 国際交流、外国人観光客対応、在住外国人支援にあたり、窓口の一本化・各機関の連携が必要

2

## ○事業実施の理由

いずれも、有志の  
ボランティア対応

継続できるか心配

地域全体での  
取組にならないか…？  
行政が関われないか…？

宮古市国際交流協会

日本語教育の取組 (在住外国人支援の一環)  
⇒事業へ応募

3

## ○目的

- ①外国人一人ひとりが、どんな人かを知る。
- ②これまで活動してきた皆さんの実績を活かし、大切にする。
- ③外国人と日本人が楽しみながら一緒に学び、垣根を超えた交流の場にする。
- ④支援という視点ではなく、外国人に地域の担い手として活躍してもらうために実施する。

この考え方は、  
アドバイザーの方々からいただいた  
アドバイスです。



4

## ○スタートアッププログラムの体制

### ■アドバイザー

- ・石井 恵理子 教授 東京女子大学
- ・松岡 洋子 教授 岩手大学
- ・菊池 哲佳 多文化社会コーディネーター  
仙台観光国際協会

### ■コーディネーター

- ・佐々木 匡人さん オーシャンズ宮古国際交流倶楽部  
事務局長
- ・板橋 麻里子さん 日本語教室「さくら」 発起人
- ・中嶋 エミーさん エミーズ英会話教室 オーナー  
(エス・ル・タ・アン)
- ・小向 博子 宮古市国際交流協会 (市企画課)

5

## ○役割整理



- ・日本語教室内の企画提案
- ・教材提供、教材作成
- ・日本語学習支援
- ・交流サポーターのフォロー（指導）
- ・外国人支援に係るアドバイス
- ★日本語教室「さくら」、にほんご広場のほか、月1回程度の教室運営に係る打合せに参加
- ※有償ボランティア



コーディネーター

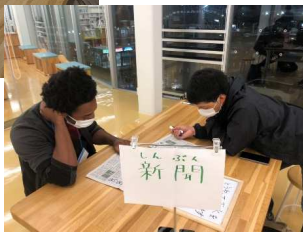
事務局

連携

交流サポーター

- ・日本語学習支援
- ※無償ボランティア

- ・教室開催に係る調整（日程調整、会場確保、関係機関調整）
- ・コーディネーターからの提案を参考に企画内容を確定、実施



6

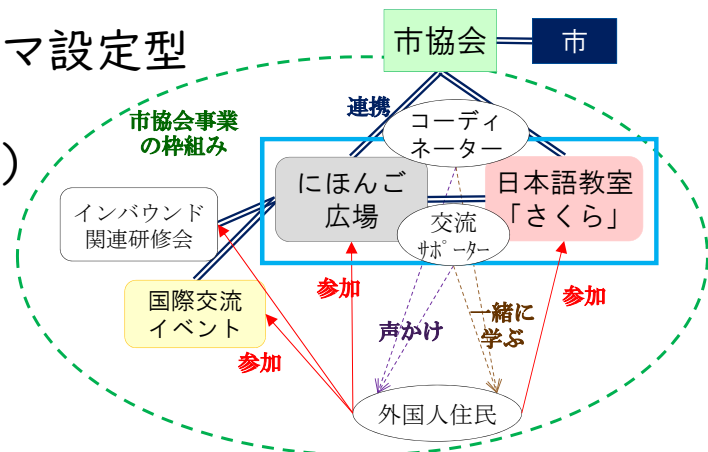
## ○日本語教室の概要

### ■日本語教室「さくら」：集合・テキスト利用個別対応型

- ・1回1時間 月4回程度  
（月19:00～、土11:00～の組み合わせ）
- ・参加者個々の能力、要望に合わせた学習
- ・学習者7名程度、学習支援者7名程度

### ■「にほんご広場」：集合・テーマ設定型

- ・年5テーマ程度  
（ごみの出し方、災害対応等）
- ・参加者全員が同じテーマでワークショップ



7

## ○ 3年間の取組（1年目）

- 外国人の実態把握（ニーズ調査）
  - ・ 在住外国人、技能実習生等受入事業所へのインタビュー
- 日本語教室「さくら」での実践
  - ・ 文化庁テキストの活用等→形態の検討
- テーマ設定型教室の試行
  - ・ にほんご広場・災害時研修「にほんごでひなん」



↑市街地のハザードマップを見ながら、どこに逃げるかを話し合いました。



↑発表



↑避難所体験

## ○ 3年間の取組（2年目）

- 日本語教室「さくら」の移行と会場の検討
  - ・ 4月～日本語教室「さくら」を協会主体に。
  - ・ 10月～会場を市民交流センターに。
- テーマ設定型教室「にほんご広場」（4テーマ）
  - ・ ごみの出し方研修、災害時研修、書き初め研修、スピーチコンテスト
- 交流サポーター（日本語学習支援ボランティア）の育成



↑ごみの出し方



↑災害時研修  
(防災訓練での多言語対応)

書き初め→



↓にほんごスピーチコンテスト



## ○3年間の取組（3年目）

- 日本語教室「さくら」（月4回程度）
- テーマ設定型教室「にほんご広場」（5テーマ）
  - ・ごみの出し方研修、災害時研修、フォトコンテスト、書き初め研修
- 交流サポーター（日本語学習支援ボランティア）の育成



↑さくら

↓災害時研修で発表



↑フォトコンテスト授賞式



↑書き初め(高校の書道部と)

## ○参考までに、会場の紹介



市民交流センター内  
1階 交流プラザ



2階 創作スタジオ

## ○3年間で見たこと

- 日本語教室「さくら」の運営形態  
⇒一斉指導型はあきらめた！参加者に流動性があるのは仕方がない！
- 日本語教室開催の年間スケジュール  
⇒「さくら」・「にほんご広場」の組み合わせで定期開催
- 市民交流センターを利用することの効果  
⇒「いつも何かやってるね」との声
- ほかの協会事業への波及効果→日本語教室への相乗効果  
⇒学習者がほかの事業にも参加したり、やりたいことを提案してきたり。  
ほかの事業で関わる学生の日本語教室への参加
- 予算の確保  
⇒市からの受託（コーディネーターの報酬の確保）
- 事務処理  
⇒日本語教室実績をまとめるための書類整理

12

## ○これからの取組

- オンライン参加の可能性  
→遠方に住んでいる人、学生など参加の間口を広げたい。
- 定期開催以外の個別対応型の可能性（交流サポーター（ボランティア）とのマッチング）
- 周知方法の工夫  
→国際交流や外国人対応に興味関心のある人だけでなく、  
幅広く日本語教室の存在を知ってもらう。  
→交流サポーター等の学習支援ボランティアとして関わる  
人たちを増やしていく。
- 日本語学習支援のスキルアップ

13

ご清聴ありがとうございました。



宮古市国際交流協会